

県民のあゆみ



山形県広報誌
令和4年7月号

県民のあゆみ

7
No.628

奇数月1日発行 編集発行◎山形県広報誌推進課
〒990-8570 山形市松波二丁目8番1号 ☎023-650-2534

表紙題字 | 山形県知事 吉村美栄子
県ホームページアドレス https://www.pref.yamagata.jp/



- 2 | 県民の皆さまへ 新型コロナウイルス感染症関連情報
- 4 | 特集 第6回「山の日」全国大会開催！
- 8 | 奏であう人 地域資源を生かした製品づくり
- 16 | 潜入レポート！ 鶴岡市立加茂水族館（愛称・クラゲドリーム館）

登山が趣味の加藤さん夫妻。2019年の移住フェアがきっかけで神奈川県から飯豊町に移住しました。雅史さんはチェーンソーオペレーターとして林業に、絵美さんは地域おこし協力隊としてアウトドア指導に従事し、仕事でも山に携わるお二人です。（撮影場所：山形県源流の森）



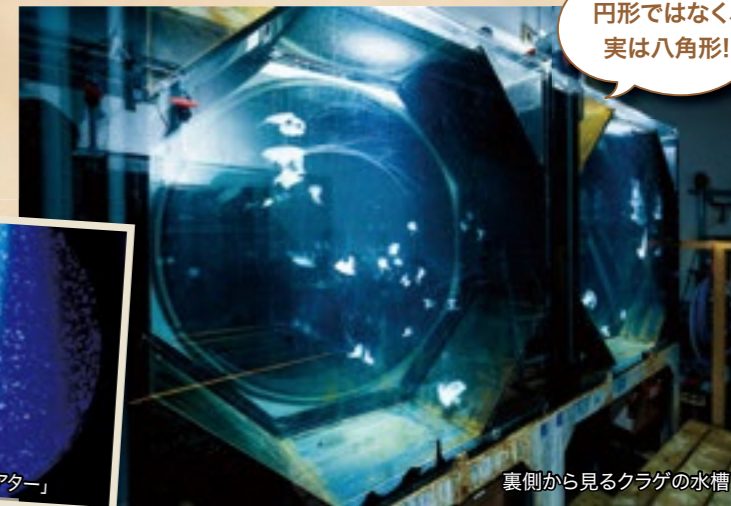
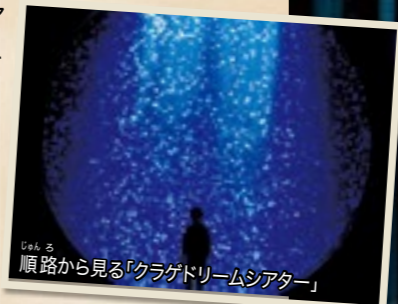
どうなってるの!?

つるおかしりつかもすいぞくかん
鶴岡市立加茂水族館（愛称・クラゲドリーム館）

クラゲ展示種数世界一を誇る加茂水族館。
有名な大水槽には、いったいどんな秘密があるの？

直径約5mの美しすぎるクラゲ水槽。
その裏側には、職員たちの熱意と努力が！

加茂水族館は、1930年に山形県水族館として開館したことに始まり、クラゲに着目したことがきっかけで2014年に現在の姿へリニューアル。県内有数の観光施設として知られています。同館の目玉は、直径約5m、厚み27cmの亚克力ガラスの大水槽「クラゲドリームシアター」。正面から見ると円形ですが、実は八角形の構造なんです。40tもの水槽の水を入替えるために眼下の海から毎時2tの海水を汲み上げて使用しているそう。驚くのは、この水槽をはじめ館内のクラゲの水槽の形や仕組みを考えたのは同館の館長ご自身ということ。クラゲの知識ゼロからはじめ、いろいろ工夫しながら展示に理想的な水槽を創ったのです。また、その技術は世界中の水族館などに公開され、クラゲの生かされています。



円形ではなく、
実は八角形！



鶴岡市立加茂水族館 飼育主査
佐藤 智佳さん
当館は世界中のクラゲと、庄内の海や川にいる生き物に特化した施設です。訪れた際には不思議に思ったことを好奇心に変えて、心の中に持ち続けてほしい。そんな皆さんが、いつか山形の海やそこですまう生き物に関わる仕事をしてくれたら嬉しいです。



クラゲとして泳ぎ出す前の段階を「ポリプ」と呼びます。館内では数十種類にもおよぶポリプが大切に飼育され、成長したクラゲは水槽で展示されます。



庄内にすむ淡水魚の展示スペースのジオラマは、模型の草木一つひとつまで庄内の自然環境を本物のように再現しています。



見るものに幸福をもたらすというケサラシバサランも展示。その正体は未だに謎ですが、新館に移った今も人気者。ぜひ見ていってね。



2017年に保護された、キタゾウアザラシの「なおみ」。この種が展示飼育されているのは日本中でここだけ！ぜひ会いにきてね。

